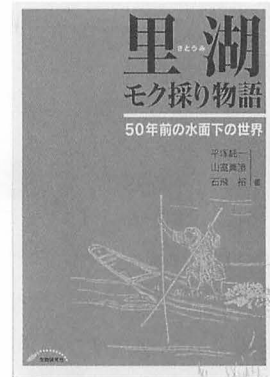


平塚純一・山室真澄・石飛 裕 著

里湖モク採り物語 —50 年前の水面下の世界

あの「海洋と生物*」を出版している生物研究社の凄腕編集長 山岡容子さんから「こんな本を出しました」と手渡された。里湖？ モク採り？ タイトルが面白そうな本だなと思って読んでみたら、中身も面白いです、山岡さん。

「里湖」は「さとみ」と読む。広辞苑には出てこないで造語かもしれない。人里近くにあつて人々の生活と結びついた山・森林を意味する「里山」(広辞苑第5版)と同じような使い方がされているようだ。「里湖」文化が沈水植物(モク)に支えられていることを看破した著者らは、「モク採り」について綿密な調査を行ってきた。取り上げられる「里湖」は、中海・宍道湖(第2章・第3章)から山陰の瀉湖(第4章)、そして全国の湖沼(第5章)へと広がって、日本の湖の生態系が20世紀中頃に急変したことを確信するにいたる。付録の「モク採り関連年表」なども実に精力的な仕事で、湖オタクを標榜するのも肯ける。10年ほど前、雲南省大理市の洱



(株)生物研究社、
A5判、142頁、
2006年、定価
1,785円(税込)、
ISBN 4-915342-
48-4

海(アールハイ)で「モク採り」をする夫婦を見たことがあるが、「里湖」崩壊はいまや近代化著しいアジア全域にみられる事象なのではないか。ぜひとも世界へ展開して欲しい物語と思う。

昨今の、近視眼的な「自然再生」に盛り上がる環境保護運動にも一石を投げようとする、山岡編集長イチオシの書。(編)

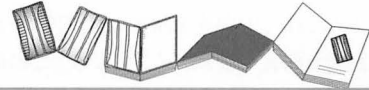
*今年の6月号で、21年間続いた川嶋昭二さんの連載「日本産コンブ類の分類と分布」が完結した、好評隔月刊海洋生物専門誌。

ご出版の予定をお持ちの会員へ 2007年に出版された御著書の情報をお寄せください。

必要事項:①書名, ②著者名, ③出版社, ④サイズ, ⑤頁数, ⑥出版年, ⑦定価(税込), ⑧ISBN

情報提供先:〒305-0005 つくば市天久保4-1-1 国立科学博物館
植物研究部 北山太樹「藻類書評・新刊紹介」係

Fax: 029-853-8401, E-mail: kitayama@kahaku.go.jp



藻の見遊

企画展「地下展 UNDERGROUND—空想と科学がもたらす闇の冒険」

2007年9月22日(土)～2008年1月28日(月)

東京お台場の一角に立つ日本科学未来館で、地下世界をテーマにした興味深い企画展が開かれている。サイエンスコミュニケーション推進室の森田由子氏によれば、未来館の企画展示ゾーンを初めて全面(約1,500m²)使用したとのことで、その広大な仮想「地下」空間には圧倒される。地球の地下にまつわる話題が網羅されており、とりわけ全生物の系統関係を立体表現した「生命の樹」は必見。門レベルにまで分岐した枝から気根のように垂れ下がる糸の先に、真正細菌(大腸菌)からヒト(ダーウィン)までおびただしい数の生物画像(藻類の写真は、井上 勲先生ら多数の藻研究者からの提供)が闇の中での静かに横たわり、1個の芸術作品に仕上がっている。(編)



「生命の樹」

【日本科学未来館】

所在地: 〒135-0064 東京都江東区青海2丁目41番地

連絡先: Tel 03-3570-9151 Fax 03-3570-9150

交通: 新交通ゆりかもめ(新橋駅～豊洲駅)「船の科学館」駅下車、徒歩約5分 または 都営バス「日本科学未来館前」下車、徒歩約1分

入館料: 大人900円, 18歳以下350円(団体8名以上: 大人800円, 18歳以下310円)

時間: 10:00-17:00(入館は閉館30分前まで)

休館日: 毎週火曜日(祝日, 冬休み期間は開館)・12/28-1/1

URL: <http://www.miraikan.jst.go.jp>

